

シニア世代が主役です



林の中で野鳥の姿を追う大阪シニア自然大学の受講生たち＝兵庫県伊丹市の昆陽池公園で

高齢者の増加と、その自然好き傾向……。二つをうまく結びつけ、職場で定年を迎えたり、子どもに手が掛からなくなったりとシニア世代に、自然とかわるボランティア活動へ参加してもらおう、という講座が大阪府内で続いている。8年前に社団法人・大阪自然環境保全協会が開講し、今年も募集を始めた「大阪シニア自然大学」だ。すでに千人を超えた受講生は地域や学校を舞台に活躍しており、全国的な注目も高まってきた。(科学部・米山 正寛)

小学校で観察会の講師

2年前に大阪シニア自然大学を受講した松田秀雄さん(63)は昨年の春と秋、大阪狭山市の市立南第三小学校で、低学年の子どもたち約90人に自然観察を指導した。元受講生の仲間たち十数人も一緒に出かけた。現場となる校内で下見を重ね、説明のプリントを準備した。当日は1人

が子どもら6人の班に付き添った。カタバミの葉で10円玉を磨くと、葉に含まれるシウワ酸の効果でピカピカになることを教えたり、プロペラみたいになるトウカエデの種を飛ばしたり……。小学校では今春から、豊かな自己表現ができる子どもを育てようと、総合的な学習の時間が始まる。

自然観察もその一環として重視される。同校の村上正彦教頭は「興味深い形で身近な自然について教えてもらえ、子どもたちには新鮮だった。少人数の班に指導者が1人つくなんて、学校の教員だけではできないこと。今年もお願ひするつもりです」と話す。

「また来てください。ありがとうございます。子どもたちからの手紙をうれしそうに眺める松田さんは、かつては大手企業の営業マン。定年後、仕事と関係のない活動がしたくなった。自治体の開く生涯学習講座などを受けても

を感じてほしいな」

大阪府豊中市の服部緑地。この冬、土曜や日曜に「子ども夢ひろば」を開いているのも、シニア

自然大学の元受講生たちだ。野鳥観察や自然素材を使った工作などで家族連れを誘う。好天の日は百人を超す人たちが集まってくる。

中心となっている一人

環境へ高い

冬のある日、大阪シニア自然大学の講義は野鳥がテーマだった。約60人の受講生は、鳥の体の仕組みや行動について説明を聞いた後、冬鳥の飛来地として知られる兵庫県の

伊丹市の昆陽池公園へ繰り出した。観察できたのは、オナガガモやユリカモメなど水鳥を中心に25種ほど。受講生の一人、大寺道代さん(59)は「はじめは内

94年に大阪自然環境保全協会の中に生まれた大人向けの学習・活動組織。校舎はなく、大阪・梅田の公共施設や服部緑地(豊中市)の施設などを借りて授業をする。カリキュラムを作ったり、講師を選んだりする事務局のスタッフが約20人いる。大学や博物館などから専門家を招き、授業を進める1年間の講座部が基本。4月か

大阪シニア自然大学の年間カリキュラムのイメージ

(数字はおよその授業日数。これに合宿などが加わる)

植物 11日	ボランティア 2日	都市環境など 7日
森林・里山 3日	導入とまとめ 6日	水生生物 4日
昆虫 4日	動物 3日	野鳥 2日

大阪シニア自然大学

94年に大阪自然環境保全協会の中に生まれた大人向けの学習・活動組織。校舎はなく、大阪・梅田の公共施設や服部緑地(豊中市)の施設などを借りて授業をする。カリキュラムを作ったり、講師を選んだりする事務局のスタッフが約20人いる。大学や博物館などから専門家を招き、授業を進める1年間の講座部が基本。4月か

シニア自然大学校紹介記事抜粋 2003 年（平成 15 年）9 月 12 日

朝日小学生新聞
2003年(平成15年)9月12日
金曜日
第11270号
(日刊)



「ホテイアオイはなぜ水に浮かぶのかな」。シニア自然大学のメンバーといっしょに、自然のなぞを勉強する4年生たち—大阪府東大阪市の石切東小で

大阪のシニアグループ 地域の小学校で先生役

生物の生態・観察の方法 自然とともに生きること 子どもたちにつたえよう

「身近な先生」として活動する人たちがいます。大阪の市民グループ「シニア自然大学」のメンバー。シニア自然大学で一年間にわたり、自然観察の方法や身近な生物の生態などを勉強。その後、小学校などにかき、植物、昆虫などそれぞれの得意分野を生かして先生役をつとめています。

担当する「インタープリテーション科」のメンバー十三人で、をテーマに探検。プロペラミミに回るトウカエデの種をとばしたり、ホテイアオイがなぜ水に浮かぶのかを考えたりしました。

「いままでなんとなく見ていた植物にも、いろいろな不思議があるんだな」と樋口奈央さん。川端佑典くんは「もうひとりの先生に教えてもらったみたい。学校の外の植物のことも聞いてみたい」と楽しそうでした。

インタープリテーション科では、昨年度だけで小学校十校以上を訪問。総合的な学習の時間に、身近な自然観察をテーマに教えてほしいとたのまれることがふえていたそう。メンバーの松田哲弥さん（六十五歳）は「自然といっしょに生きていることを、少しでも感じてもらえたら。話す中で、子どもたちから学ぶこともたくさんあります」と学校での活動を楽しんでいます。

(清田 哲)

H15(2003)年 9 月 4 日 東大阪市立石切東小学校



H15（2003）年 11 月 12 日 大阪市立瓜破東小学校



H17（2005）年 7 月 11 日 大阪市立湯里小学校



H17（2005）年 7 月 23 日 大阪教育大附属平野小学校

